

平成24年5月25日

各位

西日本シティ銀行
NCB リサーチ&コンサルティング

消費者動向調査 No.110 「夏のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行(頭取 久保田 勇夫)は、消費者動向調査を定期的実施しております。今般、当行連結子会社 NCB リサーチ&コンサルティング調査部と共同で「夏のボーナス使いみち調査」を実施し、調査結果がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

記

「夏のボーナス使いみち調査」

調査結果要約

調査時期：平成24年4月
調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦500人
(うち回答者486人、回答率97.2%)

- ◆ 今年の夏のボーナス支給予想、前年夏と比較して「多くなる」は0.5ポイント減少。
前年夏よりも、ボーナスが「多くなる」・「少なくなる」とともに減少し、「同じくらい」が7.5ポイント増加した。
(調査結果本文2P)
- ◆ 夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.0%。2位は「旅行・レジャー」で41.2%。
夏のボーナス支出予定1位は「貯蓄」の57.0%で、前年夏の60.0%より3.0ポイント減少し、2位は「旅行・レジャー」で41.2%。
(調査結果本文3P)
- ◆ ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の教育費のため」で44.9%。2位は「将来の生活費補てんのため」で42.4%。
景気の先行きや雇用に対する不安は依然強く、将来への備えが上位を占めている。
(調査結果本文4P)
- ◆ 夏のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が53.8%で1位。
景気回復の兆しを感じられない中、安全性を重視する割合が引き続き高水準。
(調査結果本文5P)
- ◆ 関心がある金融商品、1位は「預貯金」で前年の冬より1.8ポイント増加し78.4%。
「預貯金」への関心が、これまで(平成19年冬から)で最も高い78.4%。
(調査結果本文6P)
- ◆ 夏のボーナス、自由に使える金額は、昨年の夏に比べて夫は変わらず。妻は1千円ダウン。
ボーナスが「同じくらい」と予想する割合が増加したのを反映し、「自由に使える金額」は前年から横這いとなった。
(調査結果本文7P)

[調査結果本文はこちら](#)

この調査に関するお問い合わせ先は
西日本シティ銀行 広報文化部 近道・原田 TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。